

◆ 田万川のおたからを育んだ 海彦・里彦・山彦

萩市の北東部に位置する田万川は、北は日本海に面し、天然の良港といわれる江崎湾は、漁港として栄えてきました。毛利藩政時代には、米や蠶、紙といった「防長三白」の積み出し港として北前船などの回船が出入りし、海が「縁」となりつくられた西堂寺六角堂、志士の墓など、人やものが行き交った名残が現在に伝えられています。中央を流れる田万川沿いの里の地は、肥沃な大地で、昔から米や野菜が実り、美しい田園風景が見られます。山々に囲まれた小川地区は、火山の噴火によって生まれた平山台・上の原台・原山台の3つの台地があり、平山星の城をはじめとする中世の山城や千人塚などの戦いの跡が伝わると共に、開拓され果樹園や田畑が広がっています。

これら海・里・山に育まれたおたからが、田万川のおたからです。

おたからの一例



西堂寺六角堂



天然の良港 江崎湾



松陰門下生
深江九郎 (富樫文周) の墓



教専寺



酒樽墓



田万川沿いの田園風景



溶岩が急激に冷え固まってできた
龍鱗郷 (柱状節理)



中世の山城
平山星の城



平山台の果樹園

◆ 古代の息吹が今にいきづく 阿牟の里・大井

大井地区は三方を阿武火山群に属する羽賀台等の山々に囲まれ、大井川が蛇行しながら日本海に注ぐ、農・漁業が盛んな地区です。また、北浦で最も古くから文化が芽生え栄えた地域の一つでもあり、その痕跡は縄文時代・弥生時代にさかのぼります。古代には、阿牟の君の都として発展しました。宮の馬場遺跡等の弥生時代遺跡や遺物、黄金色の環頭太刀柄頭などが出土した円光寺古墳、その他大小の古墳群、さらには大寺の塔の心礎などがこれを物語っています。

そして中世には、大井八幡宮が阿武郡十八郷の惣社とされ、精神的中心地として重きをなしました。近世には、本藩と徳山藩との分割統治下におかれ、幕末には、七卿の一人・澤宣嘉卿が旧弘誓寺に潜居しました。

このような特色ある自然や誇るべき遺跡・遺物が、大井のおたからです。

おたからの一例



阿字雄の滝



阿武の松原



円光寺穴観音古墳



円光寺古墳出土
環頭太刀柄頭



大寺の塔心礎 (礎石)



鶴山のグロ



条里制遺構



大井八幡宮



吉見正頼・広頼宝篋印塔

萩のおたから

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業では、地域のおたからを再発見して、「萩のおたから」として地域から推薦し、市民が互いに認め合い、データベースで公開して活用する取り組みを行っています。これからも、萩のおたからを未来に引き継ぐため、萩市民が協力しあい、守り育て、いかす活動を進めていきます。

萩のおたから（文化遺産）とは…

- ・地域らしさを作り出している「もの」や「こと」
- ・地域のことを物語る上で欠かせない「もの」や「こと」
- ・地域のたからとして大切に守り伝えていきたいと思う「もの」や「こと」

平成 27 年（2015）度の活動

- | | | | |
|------|--------|--|---|
| 2015 | 4月23日 | 第4回実行委員会 |  |
| | 5月～ | 各地（川島・藍場川、笠山・越ヶ浜、須佐、田万川、大井）で
現地調査・資料調査
地域おたからマップ原稿作成
地域交流イベント企画・準備 |  |
| | 5月30日 | 大井地区 地域交流イベント
「北浦の王都 阿牟（あむ）の里 見て歩き」 |  |
| | 9月12日 | 笠山・越ヶ浜地区 地域交流イベント
「漁業集落・越ヶ浜の暮らしの歴史と笠山の自然を巡る」 |  |
| | 10月17日 | 田万川地域交流イベント
「秋の田万川ツアー ～海彦・里彦・山彦 三彦を巡る旅路～」 |  |
| | 11月2日 | 地域おたからワークショップ
「おたからの活用を考えよう ～実践編～」
講師：西山徳明教授、浜崎しつちよる会の皆さん
町並みトレイルツアーを体験し、様々な活動事例紹介などを通しておたからの活用を考える |  |
| | 11月28日 | 須佐地域交流イベント
「幕末・明治維新と日本の近代化を支えた須佐の歴史探訪ツアー」 |  |
| 2016 | 12～1月 | 各地で推薦するおたからの検討・推薦資料作成 | |
| | 2月18日 | 文化遺産認定委員会 | |
| | 2月24日 | 第3回萩まちじゅう博物館おたから総会
各地域からおたからを推薦発表、
市民が「萩のおたから」として認定 |  |

◆ 人々の暮らしにとけこんだ 藍場川と川島の風景と歴史

阿武川の分岐点に位置する川島は、三角州の中で最も早くから開拓が始まったところです。1604年、毛利氏の萩城築城のとき、指月山麓にあった善福寺が川島に移築され、武士も移住するようになり、町並みが出来上がります。

江戸時代、阿武川から取水し開削された藍場川は「大溝」「溝川」とも呼ばれ、農業用水、生活用水など多目的に利用され、今日まで大切に管理が行われ環境が守られてきました。今なお清らかに流れる藍場川には、石橋やハトバが、そして旧湯川家屋敷をはじめとして池を構えた旧宅が随所に残っており、周囲の木立とあいまって、往時の風景や暮らしを感じとることができます。山県有朋公の誕生地、旧宅である波月堂跡、そして桂太郎公が総理時代に建て直した旧宅も、藍場川沿いにいまでも佇んでいます。

こうした藍場川と川島の風景と歴史が、川島・藍場川地区のおたからです。

おたからの一例



阿武川、太鼓湾と桜



川島の桜を植樹した
阿武松之助顕彰碑



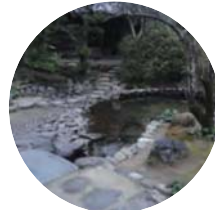
土手沿いの桜並木と生垣



善福寺



藍場川沿いの屋敷 (旧湯川家屋敷)



池泉式庭園



桂太郎旧宅にかかる石橋



藍場川で野菜を洗う風景



天神祭りに奉納される聖

◆ 越ヶ浜の自然と漁業集落の暮らしの文化

日本海に浮かぶ市女笠のような形が特徴的な山・笠山と、その笠山が陸続きとなった砂洲の上に発達した越ヶ浜。笠山は、阿武火山群のひとつで、噴火口や溶岩台地などの火山地形や、溶岩が生み出した風穴と対馬暖流の影響を受けた独特の植生など、自然の見どころが多数あります。そのふもとに広がる越ヶ浜は、両腕のように伸びた半島に夕瀬湾・嫁泣湾を持ち、港には藩政期から明治期にかけて北前船などの回船が立寄り、漁業も盛んで、多くの人々が住まい・往来してきました。海が埋め残された「かん水湖」の明神池には海の魚が泳ぎ、安芸の宮島から勧請した巖島神社とともに、人々から大事にされてきました。また、商売などを元につけた門名や神仏信仰、祭礼などが今も継承されています。

今日まで残してきた貴重な自然・歴史と、それにつながる暮らしの文化が、笠山・越ヶ浜地区のおたからです。

おたからの一例



笠山



明神池



風穴



巖島神社



巖島神社の祭り (管弦祭)



昇殿巫女の舞



越ヶ浜の集落



町並みと門名



はえ縄漁

◆ 幕末・明治維新と 日本の近代化を支えた須佐

須佐之命の伝説に始まる須佐は、地質の宝庫ともいわれ、約1650万年前、日本列島が定着して最初に堆積した須佐層群や、それを貫こうとした溶岩帯の作用を受けた高山や須佐ホルンフェルス、阿武火山群のイラオ火山から流れ出た溶岩流でできた昼ヶ淵や猿屋の滝など、自然の造形美が地域内に多数あります。

歴史的には、関ヶ原の戦い以降、萩藩を幕末まで支えた永代家老・益田氏の本領地であった須佐は、基盤の目状の町割りに、今も益田館をはじめ、松崎八幡宮、大湫寺、育英館跡、笠松神社などの史跡があり、当時の様子を物語っています。また、明治以降の近代日本の経済・産業の発展に尽力した久原房之助や手塚猛昌などの偉人のゆかりの地でもあります。

これら、先人たちが今日まで残した貴重な自然・歴史・文化の遺産が、須佐のおたからです。

おたからの一例



益田家墓所と須佐湾、高山



益田館



松崎八幡宮と歴代領主奉納燈籠



益田家位牌所・大湫寺と庭園



須佐育英館跡



禁門の変と笠松神社



久原房之助



久原波止場



時刻表の父 手塚猛昌